

消された寺の謎

～戸隠神社の廃仏稀釈～

< 150年前に消えた戸隠顕光寺のゆくえを追う >

現在の戸隠神社にあった、戸隠顕光寺とは？

○平安時代（849年）に、学門行者が開山

○奥院（現在の奥社）← 中心的存在、中院（中社）、宝光院（宝光社）より、成る

○神仏習合の寺



奥院の院坊の礎石



ここに、奥院の院坊があった



奥院の所在、と院坊名の記入名

○江戸時代—長野県内の3大神社・寺のひとつ

・戸隠顕光寺 ・善光寺 ・諏訪大社

○戸隠五社・・・有名な天岩戸伝説にまつわる寺社（明治維新後顕光寺は戸隠5社と変化した）



◇次のような神を祀っている

☆奥社 岩戸を神力で開いた天手力雄命

☆九頭竜社 戸隠の地主神

☆宝光社 女性と子供の守り神 天表春命

☆中社 天岩戸開神楽を考え出した天八意思兼命

☆火之御子社 天岩戸の前で舞った天鈿女命

○徳川幕府より顕光寺は善光寺と同じく一千石の御朱印地を保証する朱印状をもらっていた。

○朱印地の内訳は 別当5百石（寺院のトップで領内の民政を司る） 66代まで続いて明治維新になった。

江戸時代に江戸に出向き將軍にお目見えの礼をとり、比叡山や東叡山から転任していた。

・社僧（奥院12院）3百石 ・社家（神官栗田家） 2百石

○信濃天台宗寺院の元締めとなり、また東叡山寛永寺の末寺となった。

○顕光寺も多くの末寺を有しており、維新の時に廃寺となった吉村の山千寺(◆)には長野県宝となる、県で一番古い観音様が伝わって保存されている。

銅像観音菩薩立像（現在は市立博物館内）

白鳳時代（戦前は国宝に認定）



顕光寺の消滅 1868年（明治維新と神仏分離令）

< 神社の地位を高め、天皇制の強化をめざした政府 >

- ・ 2月：明治政府からの変革の命令が、顕光寺に伝えられる。
- ・ 6月：別当勸衆院（顕光寺の最高責任者）が、急いで、僧籍離脱。神官になって、地位を守ろうとする。
- ・ 7月：顕光寺の宗徒全員が集合。神官になる決意の血判。
- ・ 11月25日：神道への転職の儀式を実施
 ※午前中は、仏式の勤行、午後は、神式により、神勤

○1870年 （ 廃仏稀釈がさらに進められた。）

多くの仏像、宝物が戸隠顕光寺および院坊から消えてなくなった。
 同時に県内各お寺や個人の家に保存されてしまった。又は多くが破壊されたり外国に渡ったりしてしまった。

私たちシニア大学郷土の歴史 火クラス 実技グループ3名は、お寺の象徴である、門前の仁王の行方を追って調査した。また現在の存在場所を実地に調べて存在を確認した。

○奥社の現在ある「随神門」にあった力士像2体は善光寺横の寛慶寺の本堂内に保存されている。



奥社参道にある現在の随神門と神像

寛慶寺(●)

堂内の力士像

○中院まえの参道にあった仁王力士像は小布施の岩松院の入り口の仁王門内に安置されている。



参道にそば仁王門屋がある

岩松院(○)の仁王門内に安置されている力士像

○法光院（宝光社）まえの参道にあった仁王力士像は稲里町の善導寺（■）の入り口の仁王門に安置されている。



参道の旅館奥田屋の前に位置していた

仁王門内に安置されている力士像



○戸隠神社宝物館(★)には大事な宝のいくつかは 保存されていて、廃仏稀釈の嵐を過ぎて存在している



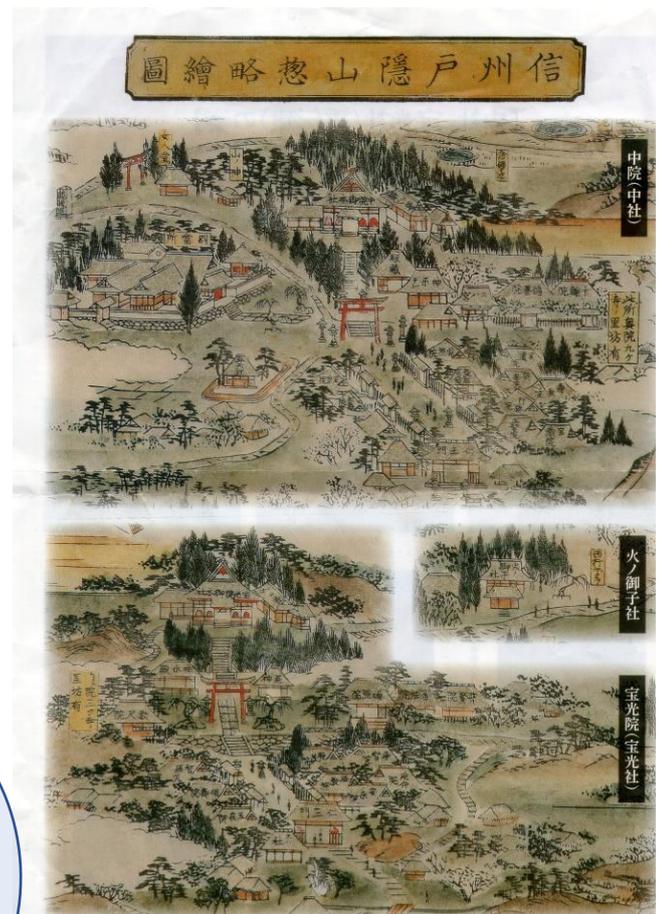
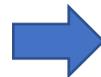
通天牙笏

アフリカ像の牙で正倉院ほか日本に5枚の存在。

まとめ ～ 顕光寺は、戸隠神社として復活～

- ・幕府よりの朱印地、寺の特権は政府より取り上げられた
- ・奥社の院坊跡地は国有地となり、僧侶は、中社・宝光社へ、移転・改名をさせられた。(久山理安他36名)
- ・九頭竜社は水の神様として地域の信仰の対象となり農業神として県内各地から戸隠講の参拝が増えた。

江戸時代には戸隠が神仏混合であったことが絵図上に鳥居と仁王門が描かれていることから判明する。



見返し・感想

神仏混合は、各家庭にも存在しているが、戸隠で、仏が極端に排除されて、神の1本化には、びっくり

小澤

面白かった。奥社の前に門前町があったことに驚いた。

堀 洸

現地調査は、風と汗が気持ちよかった。
院坊の三十ありし芒原

栗 林